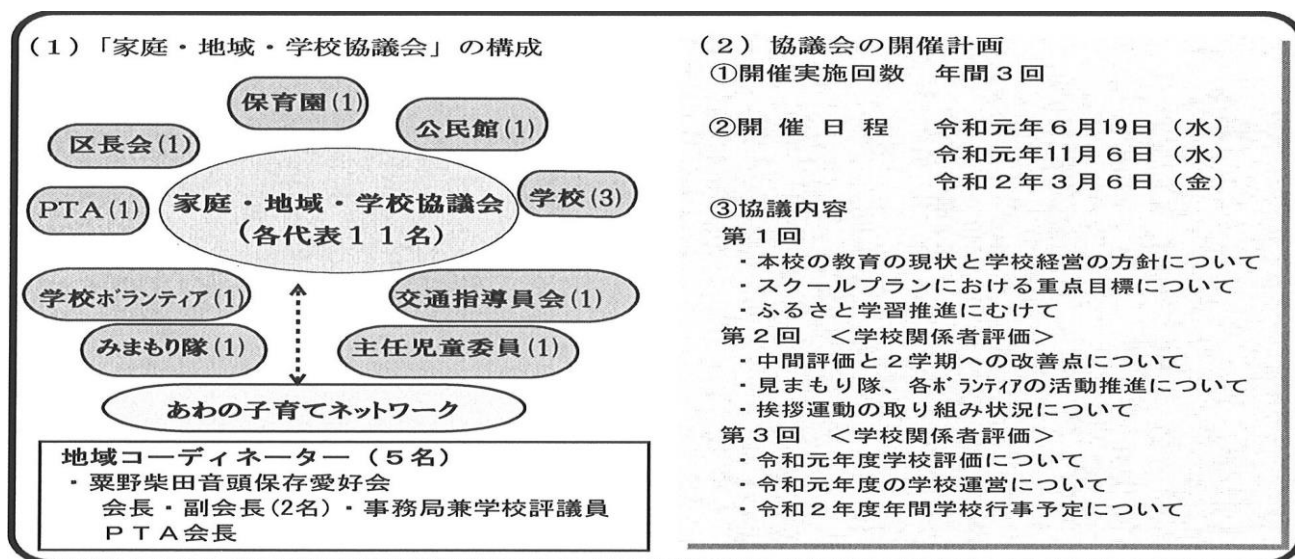


令和元年度福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

敦賀市立栗野小学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について



(3) 協議会における成果と課題

- ・スクールプラン、学校経営方針を共有できた。また、協議会の日に行事を兼ねることで学校の現状を知っていただくことができた。
- ・ふるさと学習（地域と進める体験活動）について理解、協力を得ることができた。
- ・地域コーディネーター主体に様々な活動が進むのが理想だが時間確保が難しい。

2 地域と進める体験活動 『柴田音頭を未来につなげよう』

(1) 活動のねらい

地域に受け継がれる伝統文化や芸能を知り、体験する学習を通して、それらの価値を理解し、主体的に継承、発信していく児童の育成をねらいとする。

栗野小校区に伝わる「柴田音頭」は、栗野柴田音頭保存愛好会によって連綿と伝承されている。本校児童も数名が保存愛好会に所属し、練習に励んでいる。また4年生は数年前から地域文化の理解を狙いとして、毎年保存愛好会の方々をゲストティーチャーとして招聘し太鼓の体験学習を実施し、どの子どもも興味関心を持って熱心に取り組んできた。

「柴田音頭」を柱に据え、子ども達がこの貴重な伝統芸能をただ体験するだけではなく、伝統を継承するとともに広く発信する意義を主体的に捉え、その具体的方策を地域コーディネーターの方々と共に考えていく活動に取り組み3年目となる。

(2) 活動の実際

① 「柴田氏庭園・柴田氏について調べ、発信しよう」（5年生）

子ども達は、栗野地区の伝統芸能として柴田音頭があることについてはこれまでの柴田音頭体験で知っている。しかし、「柴田音頭太鼓」と柴田氏庭園・柴田氏とのつながり等について詳しく学ぶ機会はなかった。そこで、総合的な学習の時間を中心に調べ学習を進め、「学んだことをオープンスクールで発信する」という学習計画を立てた。

9月11日には、講師として敦賀市文化振興課学芸員を招聘し「柴田氏庭園の歴史を学ぶ会」を開催した。また10月1日には、校外学習で柴田氏庭園を見学し、敦賀市文化振興課学芸員のお話を再びお聞きした。子ども達は、柴田氏庭園の歴史や自分達の住む栗

野地区の名前の由来、柴田音頭が生まれた所以などについて学び、「柴田音頭は柴田氏のために作られた粟野地区だけに伝わるすばらしい伝統芸能」ということを再認識した。

これらの学習をもとに、各学級で発表したいテーマ(内容)に応じてグループを組み、学んだことのまとめ→疑問点の調べ学習→発表の準備・練習と学習を進めた。

11月21日のオープンスクールでは、グループごとにポスターセッション、クイズ形式等、それぞれに工夫をこらし、5年生同士、保護者、地域の方々に、地域の伝統芸能「柴田音頭」と柴田氏庭園・柴田氏とのつながり等について調べ学んだことを発信することができた。



② 柴田音頭を未来につなげよう (3～6年生)

子ども達は①の学習を進めながら、柴田音頭太鼓をより多くの人に知ってもらい、未来につなげていきたい」という思いを強くした。そこで、4年生の時に柴田音頭太鼓の体験学習で講師をしていただいた粟野柴田音頭保存愛好会に学習会の開催を依頼した。話し合いの中で「気比民謡会の方に柴田音頭の歌や演奏を依頼して、それに合わせて太鼓や踊りをお祭りのように発表してはどうか」「昨年5年生が作詞した歌ももっと全校に広めたい」「できるだけ多くの学年の協力を得て発表したい」等の意見が出た。そこで、愛好会の方々のご協力を得て、「柴田音頭太鼓・踊り体験会」を計画的に開催した。3年生は踊りを、4年生は太鼓演奏を複数回学び、仕上げに気比民謡会の方の歌やお囃子、生演奏にあわせ、保存愛好会や6年生の歌も加わり、合同練習を行った。多くの保護者や地域の方が参観する11月のケヤキ集会(オープンスクール)では、子ども達は、堂々と踊り・太鼓・歌を発表し、体育館いっぱい「柴田音頭」の輪を広げることができた。

(3) 地域コーディネーターの活動概要

柴田音頭太鼓・踊り体験の取組では、子ども達からの要望に応え、公民館や気比民謡会への連絡、太鼓の手配や楽譜・曲CDの確認、運搬、会場設営等、事前準備をしていただいた。体験学習会の指導者の手配や体制づくり、子ども達への指導をしていただいた。



(4) 特に工夫した事項

子ども達が「柴田音頭太鼓」の歴史や柴田氏とのつながり等について学ぶことにより、疑問や要望が生まれ、地域の貴重な伝統芸能を継承し広く発信する意義を主体的に捉えられるようにした。また、一昨年度からの取組や活動の集大成となるような発信方法を工夫した。

(5) 成果と課題

柴田氏の歴史を学習することにより、子ども達の柴田音頭に対する意識がより積極的になり、地域の宝として継承していきたいという意欲の高まりが感じられた。学んだことや、太鼓・踊り・歌を全校や地域に人に工夫して発表したり広く披露したりしたことで、柴田音頭伝承への取組を一つ進めることができた。

今後、学んだことを自分達で下級生に伝えていく活動を取り入れたり体育大会等の学校行事との関連を図ったりしていきたい。また、柴田音頭継承のため、地域での子ども達の出番や活躍の場を設定していきたい。